

令和5年度 自己評価・学校関係者評価

学校法人 曾根ひかり学園

認定こども園 曾根ひかり幼稚園

1. 本園の教育目標

教育基本法等の幼稚園教育に関わる根拠を踏まえ、仏教（浄土真宗）の教えを心のよりどころとし、次のような幼児像を求めることで、心身ともに調和のとれた健全な幼児を育成する。

- ・明るい子…人と仲良くし、誰とでも遊べる子
- ・強い子…はきはきと自分の考えを言える子
- ・たくましい子…衛生的で健康な子
- ・幸せな子…家族を大切に、感謝の気持ちを忘れぬ子

2. 本年度の重点的に取り組む目標

- ① 人や自然との関わりの中で、自分たちでできる SDGs に取り組んでいく
- ② 年齢を超えた幼児同士の関わりを大切にしながら共に遊びのイメージを広げていけるようにする
- ③ 園として目指す幼児像の方向性を共有し、職員間の対話を大切にしながら主体的な保育の実践を考える

3. 評価項目の取組指標・成果指標

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見など	
		基準	取組み指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
①人や自然との関わりの中で、自分たちでできる SDGs に取り組んでいく	ネイチャーゲームや、栽培活動を通して SDGs を考える	1	SDGs の取組みについて家庭に発信をし、園と家庭とが一緒に考えるようにする	0.58	1	家庭でも SDGs に関心を持ち、自分たちができる事から取り組むようになった	0.63	B 0.61	<ul style="list-style-type: none"> ・学年毎で何を育てたいのか、子ども達と話し合っって花や野菜の栽培や田植えを行った。日々、水やりや雑草抜きを行う事で成長している姿に喜びを感じ、一つひとつに「いのち」があることを感じる事ができた。自分たちで育てた野菜を給食室で調理して食べる事で「いのち」をいただく事に感謝の気持ちを持ち、苦手な物でも食べてみようとする姿に繋がった。 ・クラス活動や保育参観でネイチャーゲームを取り入れて、子どもや保育者と楽しむ事ができた。園全体でも親子参加の行事でネイチャーゲームを実施した。複数の家族単位で動くようにした事で、親同士も交流を深めたりして会話の変化が見られた。 ・SDGs に関しては、絵本を読んだりゴミの分別をしたり、SDGs のアイコンを知る事などに取り組んできた。全体的に知識不足であった。今後も継続していく事が大切であると感じた。
		1	保育者自身が SDGs についての知識を身に付け、絵本や紙芝居などの教材を取り入れる		1	自ら草抜きや水やりを率先してする中で自然に親しみを持つようになった			
		1	園庭の自然に触れたり、季節に合った種や苗を植え、生長を観察して親しみを持つ		1	野菜や花作りを通して、それぞれにいのちがある事に気付き、大切に育てようとするようになった			
		1	年間を通して、季節に合ったネイチャーゲームに取り組む		1	五感を使って自然と触れ合う事を楽しみ、意欲的に活動に参加するようになった			
②年齢の枠を超えた幼児同士の関わりを大切にしながら共に遊びのイメージを広げていけるようにする	異年齢グループの活動を通して交流を深め共に学び合う	4	自由遊びの中でも、異年齢の遊びが発展していくようにする	3.77	4	学年の下の子が年長さんに憧れを持ったり応援したりするようになった。又、年長が下の学年の友達に思いやりの気持ちが持てるようになった	3.55	A 3.66	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学校関係者評価評価に添った公開保育担当園で、園全体で異年齢保育の活動を行い、異年齢での関わりや交流を深める事ができた。 ・年長児のなわとび大会やマーチング等の姿を見て、憧れの気持ちを持つ姿もあった。異年齢グループの中の年長児を応援する姿も見られた。 ・親子で楽しもう会やおにぎり会やサンドイッチ会等でも異年齢グループを取り入れる事で手伝ったり世話をしたりして、関係性が深まったと感じる。自由遊びの中で年長児の保育室に他学年が遊びに行ったり、学年関係なく廊下で一緒に遊んだりして、異年齢活動以外でも子ども達が自ら関わる姿が見られるようになってきた。 ・未満児クラス（1歳・2歳児）との関わりが少ないので、以上児クラスの子ども達が未満児クラスに遊びに行っってわらべうたや触れ合って遊ぶ時間が持てるようになると良いと感じた。次年度は実践してみたい。
		3	年間の行事の中で、異年齢で共通の遊びを取り入れる		3	自分の今の学年に自信を持つ事ができるようになった			
		2	異年齢グループを作り、異年齢の友達との関わりが持てるようにする		2	異年齢同士で名前を覚え、仲良く関わり合えるようになった			
		1	室内遊びや園庭での遊びの中で異年齢の友達と関われるような時間を設け、一緒に遊ぶ		1	異年齢の子どもに興味を示すようになった			
③園として目指す幼児像の方向性を共有し、職員間の対話を大切にしながら主体的な保育の実践を考える	園内研修を通して、主体的な保育を考える	4	子どもが自発的・意欲的に関わるような環境を構成する	3.96	4	子ども達の声に耳を傾け、したい事ややってみようとする事が実現できる環境作りができるようになった	3.88	A 3.92	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での意見や話し合う場が増え、対話の中で同僚性がより高まったように感じる。各グループの保育内容や子ども達の姿の変化を園内研修で共有する事で、主体的な保育を保育者自身が意識できるようになった。 ・学びや実践結果を園内研修を通して対話していく事で、教育の目標に向かって全職員が同じ意識を持ち、話し合いを進めていく事ができていた。 ・子ども達の声に耳を傾け、褒めたり認めたりしていく事で、子ども達にも自信が付き、自ら発言したり行動したりするようになった。 ・満3歳児クラスと2歳児クラスは年間を通してクラス交流を行った。同学年の子ども達と関わり、一緒に過す楽しさや特別感を味わう事ができた。
		3	主体性を育む保育はどのような遊びの時に見られ、保育者はどのような関わりが必要なのかを園内研修で話し合う		3	今までの保育者主導型の保育と主体的な保育の変化が感じ取れるようになった			
		2	子どもが主体的に遊びを進めている姿を記録し、変化を園内研修で報告する		2	職員間で主体的な保育について実践しよう意識するようになった			
		1	園内研修を年間8回実施する		1	園内研修の中で、年齢や経験年数に関わらず、職員同士の対話が増えた			

4.総合的な評価結果

評価	評価の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省から、今年度は園全体での「取り組み指標」「成果指標」を考へての取り組みを行った。学年毎ではなく、園全体で同じ指標に向かって指導していく事で、職員間での保育の進め方や指導のまとまりを感じる事ができた。 ・SDGs に関しては職員が知識を深め、子ども達と少しずつ取り組んできた。栽培やゴミの分別等、少しずつではあるが園全体で SDGs への意識を持てるようになった。物や食べ物を大切にしていくという事から始め、廃材を使用したの製作活動など身近な所から取り組む事ができ、無理なく進められて良かった。 ・主体的な保育となるように、日々の保育や行事に関して先ずどのようになりたいのかを子ども達に問いかけていき、保育者自身も子どもの声に耳を傾ける事を意識してきた。子ども達の思いを受け止めながら活動を進めていく事によって主体的な活動が展開できるようになってきた。その中で子ども自身の意欲や主体性が育まれてきた。 ・10月に行われた公開保育では重点目標も公表し、その上で保育を公開した事で園を更に拓いていく事ができた。様々な参加者の意見や評価によって、自園の教育・保育の良い所を再認識し自信を持つ事ができた。 ・園内研修を実施する上で中村学園大学教授の那須信樹先生に来て頂き、「子ども主体とは」「異年齢活動を通して見るべき視点」「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」などを具体的に理解する事ができた。園内研修を通して職員間の対話も増え、同じ方向性で共通理解する事ができるようになった。 ・異年齢でのグループ活動や行事の中での異年齢との関わりを多く取り入れた事によって、多学年の友達への関心が高まり、年下の学年に対して思いやりの気持ちを持ったり、年上の学年に対してより憧れを感じたりする姿があった。子ども同士の関わりの中での学びも多くある為、今後も継続して行っていきたい。

5.今後取り組む重点課題

課題	具体的な取り組み方法
地域との交流を深め、地域に拓かれた幼稚園を目指して取り組んでいく	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を深め、地域全体で子どもを育てる体制をつくり、子ども達の育ちを共に喜び合う ・自分たちが住んでいる町に興味を持てるように地域で生活している人や地域の文化や自然に触れる機会をつくる
異年齢交流の中で子どもと教師が共主体となる保育を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の話し合いの場をつくり、自分たちで遊びの内容を考え進めていけるようにする ・生活や遊びの中で、未満児クラスと一緒に遊び、交流を深める
食への意識を高め、食の大切さを感じ取りながらもいのちのつながりに気づく	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士とも連携し、三大栄養素の意味を知り、食と体の関係に興味を持つ ・食についての取り組みを発信し、食の大切さを家庭と共有していく

6.学校関係者評価委員の方の評価・ご意見

- ・全てをコロナ禍前に戻すのではなく、大切な事を見極めながらそれぞれの役割を考え、地域とのつながりを考えていく事が重要である。次年度はぜひ、市民センターと幼稚園とのつながりを深めていきたいと感じる。
- ・両親以外の祖父母も参加する人が増えてきた。世の中の考え方も変わってきているが、何を大事にしていくのかを丁寧にすり合わせていく事が大事だと思う。
- ・子育て中は不安を感じる事がたくさんある。その不安を市民センターや幼稚園の子育て支援事業で援助していければ、と感じている。
- ・公開保育や参観を見学したが、先生達の計画がとても細かくされていると思った。いろいろな子どもがいて、それぞれの対応が大変だがしっかりと目をかけていって欲しい。
- ・子ども達の心の根っこを育てるのは「家庭教育」であるので、保護者にも学んでいって欲しい。正しい子育てはないので、大きくなってその子が「独り立ち」できればよい。勉強よりも自分で生きていく力を育てていく事が大切である。
- ・先生方の高い志と熱心な指導は、きっと園児の心に伝わり、プラスになっていくと思う。これからも夢ある子ども達を育てていって欲しい。
- ・いろいろな行事やイベントが開催されて活気を感じられて良い。
- ・遊びの中で自由に思い切り活動できる時間を大切にしていって欲しい。
- ・異年齢交流を通して遊びのイメージを広げていけるように保育に取り組みされている事や、園内研修で先生方のスキルアップにも活用している事が分かった。
- ・先生達が子どもの実態を良く把握し、子どもの理解を踏まえ自らの目的と意義を施行する姿勢が見受けられ、保育の質の向上を感じる。又、異年齢の園児が遊びを通じて共同性を養い、年長園児が年少園児に対して世話等を良くしていた姿が印象に残っている。

《学校関係者評価委員による学校評価の流れ》

	日 時	内 容
1	令和5年4月21日（金）	学校関係者評価委員会発足
2	令和5年5月12日（金）10:30～11:30	年長クラスの公開保育 及び評価
3	令和5年5月26日（金）10:30～11:30	年中クラスの公開保育 及び評価
4	令和5年9月30日（土）8:45～12:00	運動会の観覧 及び評価
5	令和5年10月20日（金）10:30～15:00	北九州市私立幼稚園連盟主催 学校関係者評価に特化した公開保育観覧および評価
6	令和6年1月26日（木）10:30～11:30	年少クラスの公開保育 及び評価
7	令和6年2月21日（水）11:00～12:00	学校関係者評価委員会会議 ・評価委員と幼稚園園長と懇談会 ・令和5年度のまとめと評価 ・保護者アンケート結果 ・次年度の課題

学校関係者評価委員（曾根市民センター館長） _____ 印

学校関係者評価委員（中曾根自治会会長） _____ 印

学校関係者評価委員（小倉南交通安全協会役員） _____ 印

学校関係者評価委員（保護者会 前年度会長） _____ 印

学校関係者評価委員（保護者会 前年度会長） _____ 印

学校関係者評価委員（保護者会 今年度会長） _____ 印